

## 《コラム》 実践紹介「外部機関とつながる」「ICT 機器を有効に使う」

あなたたちは、J市の人口問題に対する取組を提案する「政策プランナー」のチームです。J市の人口に関する情報を読み取り、どのような問題があるかをつかみ、その問題を解決するための取組を市へ提案してください。

あなたたちの提案を説得力のあるものにするためには、それを支える根拠となるデータや資料が必要です。できるだけ多くの根拠となる情報を集めてください。

また、あなたたちの提案が採用されたときに期待される効果や成果も分かりやすくまとめてください。

提案内容は、5分間のプレゼンにまとめて発表してもらいます。各チームのプレゼンは、コンペ形式で競います。

上記のパフォーマンス課題を市の担当者から示してもらいました。その後、基礎資料として、市の人口動態に関する資料をデジタルデータとして生徒の端末に配信しました。

課題とともに、提案をどのように評価するかについて、以下の視点が示されました。

- ・ 課題設定（着眼点）
- ・ 提案内容（論理性）
- ・ プラン、効果（具体性）
- ・ アイデア（独創性）



提案をまとめるに当たって、情報収集で行き詰まったり、視点が広がらなかつたりして滞ることがあります。質問事項等を取りまとめて、市の担当者や必要な相手とやりとりするオンラインミーティングの場を設定しました。直接訪問したり、来校してもらったりする場合と比べて、準備や時間がかからないため、取り組みやすいと思います。

ある程度仕上がった段階で、市の担当者へメールで提案内容を送信します。

これに対して、個別に助言を返信してもらいました。生徒は、その助言を基にしてさらに提案をまとめていきました。

ビジネスマールのマナーなどについても学ぶ機会になりました。



中学校の社会科の授業で「市の人口問題を取り上げたい」との相談を受け、協力させていただきました。まずは市の人口に関するデータを中学生に提供しました。私たちは、20本の中間報告や最終提案に対して質問やコメントをしました。

この授業を通じて中学生が習得を目指した情報収集、課題発見、提案のための能力は、市役所の仕事で求められる「政策形成能力」に他なりません。今回の提案内容は、中学生らしい楽しさを持ち合わせながらも着眼点は適切であると感じました。

少なくとも中学生からの率直な提案に対して、できない理由を挙げたり、一時的な対応策に終始したりするのではなく、課題の本質に真摯に向き合うことが必要だと思いました。

（市の担当者）